

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

【吉田町教育委員会】

1 調査の概要

(1) 目的（文部科学省のねらい）

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ ア、イの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日

令和6年4月18日(木)

(3) 吉田町の実施学校数及び実施児童生徒数

ア 小学校

3校（住吉小学校・中央小学校・自彊小学校） 児童数 228人（第6学年）

イ 中学校

1校（吉田中学校） 生徒数 223人（第3学年）

(4) 調査内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）

イ 質問紙調査

- (ア) 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）
- (イ) 学校に対する調査（指導方法に関する取組や教育条件の整備の状況等）

2 調査結果の概要

(1) 吉田町の学力に関する調査結果

ア 平均正答率の静岡県・全国との比較

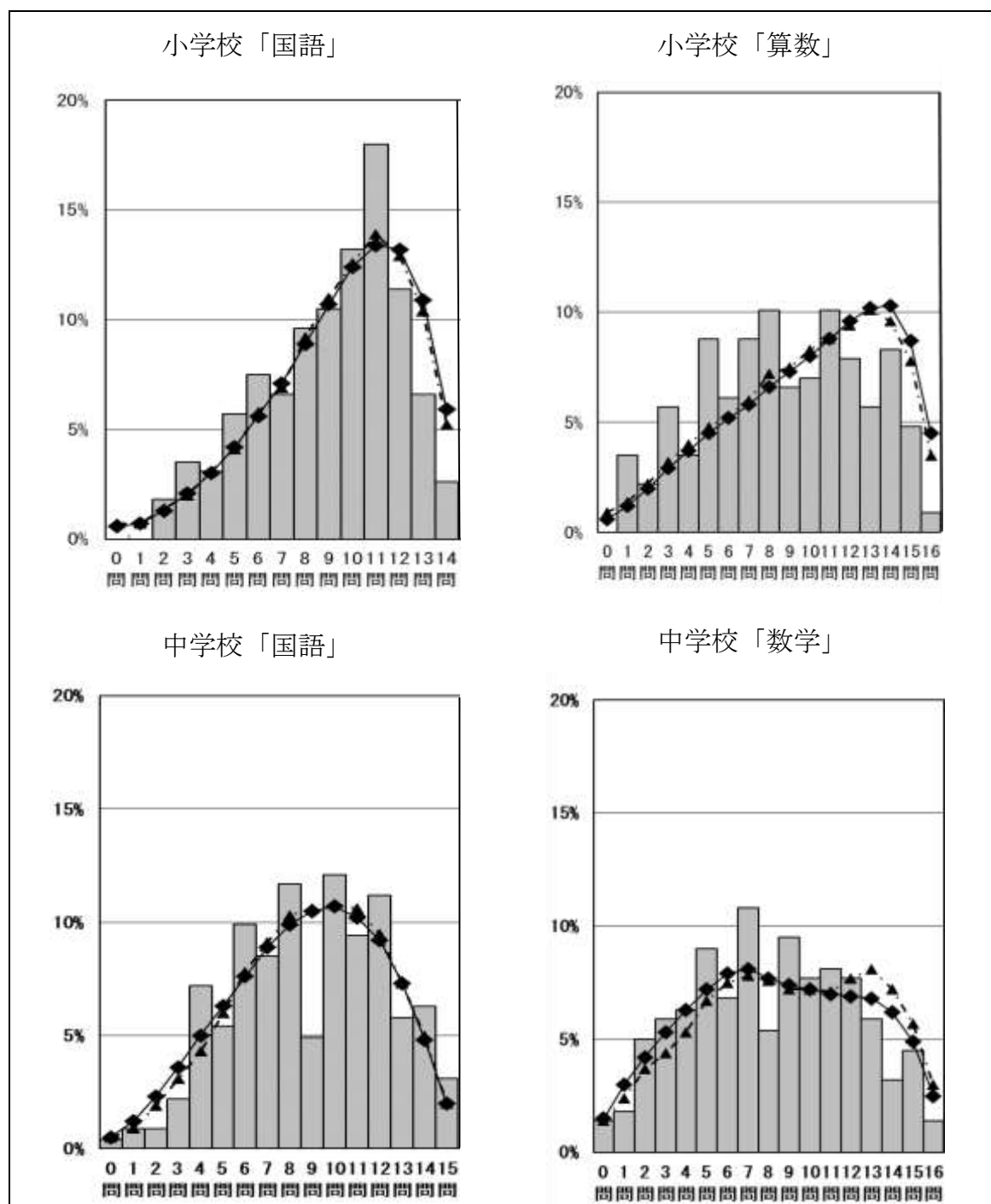
(%)

学年	教科	吉田町	静岡県	差	全国	差
小6	国語	64.7	67.2	-2.5	67.7	-3.0
	算数	54.6	61.6	-7.0	63.4	-8.8
中3	国語	59.4	59.0	0.4	58.1	1.3
	数学	50.7	55.3	-4.6	52.5	-1.8

※ 文部科学省は、都道府県・市町村の平均正答率の小数点以下を四捨五入して公表しているが、静岡県・吉田町では、独自に小数点第1位まで算出した。

イ 正答数に対する児童生徒数の割合

棒グラフ…吉田町 ▲折れ線グラフ…県 ◆折れ線グラフ…全国



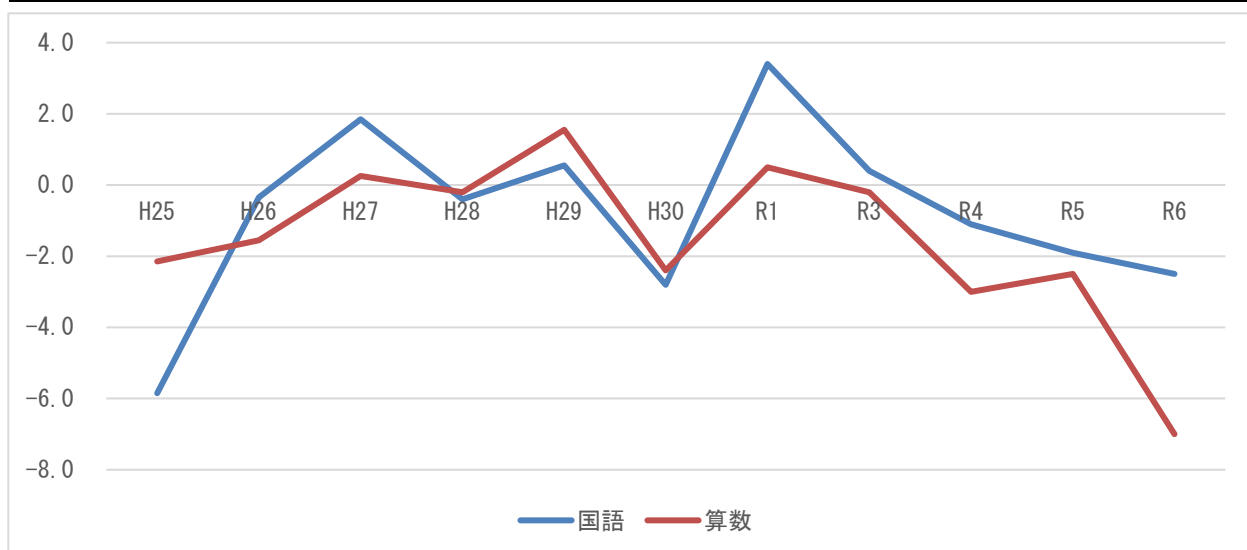
- ・小学校国語、中学校国語・数学における最頻値は、県・全国と同様の傾向が見られるが、小学校算数においては、最頻値が県・全国に比べて正答数の少ない位置にある。
- ・小学校国語・算数、中学校数学においては、正答数の多い児童生徒数の割合が県・全国に比べて低く、特に小学校算数では、正答数の少ない児童数の割合が高い。

ウ 平均正答率の経年比較：県との差（％）

① 小学校

※ 平成 30 年度までの結果は、国語 A・国語 B 及び算数 A・算数 B を足して平均を出し「国語」「算数」の平均正答率を算出

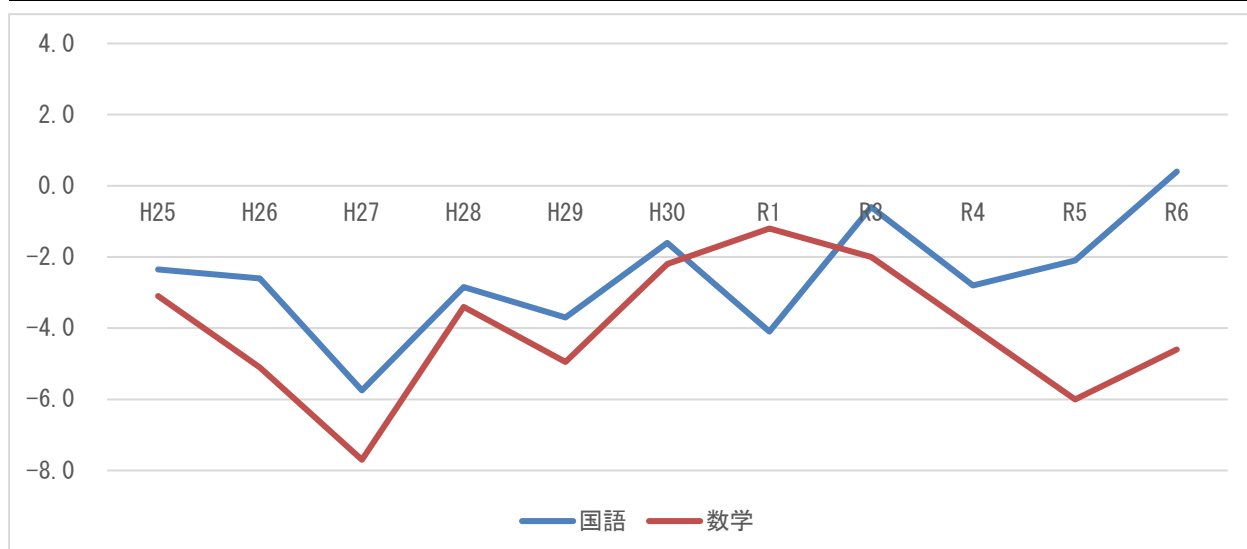
県比較	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
国語	-5.9	-0.3	1.8	-0.4	0.6	-2.8	3.4		0.4	-1.1	-1.9	-2.5
算数	-2.2	-1.6	0.3	-0.2	1.6	-2.4	0.5		-0.2	-3.0	-2.5	-7.0



② 中学校

※ 平成 30 年度までの結果は、国語 A・国語 B 及び数学 A・数学 B を足して平均を出し「国語」「数学」の平均正答率を算出

県比較	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
国語	-2.4	-2.6	-5.8	-2.9	-3.7	-1.6	-4.1		-0.6	-2.8	-2.1	0.4
数学	-3.1	-5.1	-7.7	-3.4	-5.0	-2.2	-1.2		-2.0	-4.0	-6.0	-4.6



3 課題の見られた問題（正答率が50%以下、又は県や全国との差が大きいもの）

【小学校国語】

問題 番号	正答率（％）			問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国		
1 二 (2)	50.0	53.6	52.9	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する。	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。
2 三 ア	29.4	41.9	43.4	【高山さんの文章】の下線部アを漢字を使って書き直す。 (きょうぎ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。
2 三 イ	65.8	74.6	76.0	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す。 (なげる)	

問題番号 1 二(2)

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題

(2) 和田さんは、村水さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方の工夫として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。

2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。

3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。

4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を話して話した。

① 本に興味をもってもらえるようになるのはいいですね、ぜひ読んでみます。

② 次に、私たちの学校の給食について話したいのですが、いいですか。

③ お願いします。

④ アイデア給食というものがあります。毎分、自分たちが考えたメニューが登場します。海に近く、魚がたくさん入るので、魚料理などを考えます。みんなでアイディアを出し合ったメニューが登場するので、アイデア給食と呼んでいます。

⑤ みんなで考えたメニューが出るのでうらやましいです。私の学校は、ランチルームがあり、全校のみんなで給食を食べます。

⑥ みんなで食べられるなんて、楽しそうですね。

⑦ はい、給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの学校は、海に近いですか？ 他にも、海に近いうちの学校ならではの取り組みはありますか？

⑧ えっと…（和田さんのメモを見返す）、二つあります。総合的な学習の時間の取り組みと、砂浜の清掃活動です。

⑨ 二つもあるんですね。ぜひ、一つ一つ詳しく教えてください。

～（交流が続く）～

正答：2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物をしめしながら話した。

学習指導要領における内容（抜粋）

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等

A 話すこと・聞くこと

ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

問題番号 2 三ア

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

正答： 競 技

学習指導要領における内容（抜粋）

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

＜改善に向けて＞

1 二(2)は、A話すこと・聞くことの思考力、判断力、表現力等を問う問題である。問題では、図書委員会の活動について交流する中でクイズ大会に対して「おもしろそうですね。」という言葉を受け、相手が興味をもった点を詳しく伝えるように実物を提示しながら説明をする場面の工夫を問っている。児童の半数が回答できなかったことを考えると、相手とじっくり会話をして交流する場で、相手意識をもって具体物を示して説明をするよさを価値付け、日常生活と結び付けて実感する機会を設定することが必要である。

2 三は、文章に合った漢字を書く問題である。他の問題が県や全国の正答率に近いものだったのに対して、10 ポイント程度又はそれ以上低くなっている。正答率が低かった「きょうぎ」は、同音異義語がある。「競技」と「協議」の意味の違いを理解していること、文章からその意味を判断し、正しく漢字を書く力が必要である。文脈から判断し、適切な漢字を書く力を付けるために、活字に触れ、読んだり、書いたり、話したりして語彙を豊かにする活動を行うことが必要である。また、日常的に本や新聞などを読む機会を増やすことで読解力を高めいくことも大切である。

これらの問題に共通する課題は、適切な学習活動の選択である。「話すこと、聞くこと」「書くこと」は、実際に話したり、聞いたり、書いたりする中で身に付けるものとなる。ICT 活用が増えた中、全てを ICT に置き換えるのではなく、学習内容に合わせた活動を選択することが重要である。今後、研修の中で、目標や学習内容をしっかり捉え、そのために適切な活動であるかという視点で授業を振り返る機会を設定することが大切である。

【小学校算数】

問題 番号	正答率 (%)			問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国		
1 (1)	48. 2	59. 3	62. 1	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ。	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる。
3 (2)	50. 9	67. 5	71. 3	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ。	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる。
3 (3)	23. 2	36. 6	36. 5	直径 22cm のボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。	球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる。
4 (3)	25. 9	28. 6	31. 0	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く。	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。
4 (4)	44. 3	50. 9	54. 1	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く。	速さの意味について理解しているかどうかをみる。

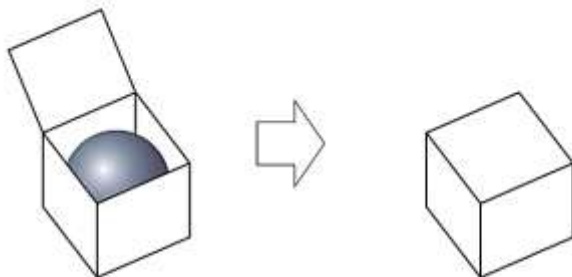
問題番号 3(3)

球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

正答： $22 \times 22 \times 22$

学習指導要領における領域・内容（抜粋）

〔第3学年〕 B 図形 知識及び技能、思考力、判断力、表現力等

(1) 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ウ) 円について、中心、半径、直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(エ) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えること。

〔第5学年〕 B 図形 知識及び技能、思考力、判断力、表現力等

(4) 立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(エ) 積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えるとともに、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。

＜改善に向けて＞

3(3)は、球（ボール）がぴったり入る立方体（箱）の体積を求める式を問いている。球の直径は、それがぴったり入る立方体の縦、横、高さそれぞれの長さと等しくなることから、立方体の体積は直径の長さを3回かけることとなる。球の直径と立方体の一辺の長さがどのような関係にあるのかを考える力を付けていかなければならない。そのためには、具体物の操作や学んだことを日常につなげる経験をし、なぜそうなるのか意味を考え実感する学習が必要である。

課題の見られる問題に共通することは、基礎的・基本的な知識に基づいて思考力を働かせる点である。「なぜそうなるのか」根拠をじっくり議論したり、意味を語り合ったり、実感したりする場面が大切となる。対策として、多様な考えに触れ多面的にものを見たり、意味を理解したりする活動を単元で意図的に取り入れた協働的な学びと個別最適な学び、体験的な学びと ICT を活用した学びのバランスをとることの大切さを再認識することが必要である。加えて、家庭学習では、短答式の問題に限らず、解き方や根拠を説明する学習（人に説明する、文章化する等）を行ったり、自分の課題を分析し、身に付けるべき内容を明確にして習熟を図ることが大切である。

【中学校国語】

問題 番号	正答率 (%)			問題の概要	出題の趣旨
	市町	県	全国		
1 二	65.9	70.2	68.5	話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む。	資料を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる。
1 三	43.5	45.3	44.0	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する。	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

3一	77.1	81.9	81.4	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものと適切なものを選択する。	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。
----	------	------	------	---	--

問題番号 1 三

意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題

① 山岡さんたちは、国語の時間に、「フィルターバブル現象の資料」をもとに、グループで話し合っていました。次の「話し合いの記録」を流し、おさめよう。

② 山岡さん：「私は、この前、インターネットで絵本作りの本を探して購入しました。あれと、インターネットを調べるたびに、絵本作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすでに見付かりました。」

③ 山岡さん：「たぶん、自分の好きな本を選んで表示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっていると感じています。」

④ 山岡さん：「そうですね。知られておれば、絵本作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。」

⑤ 山岡さん：「私も、図書館や書店で本を選んでいますが、読みたい本を見付けるのは楽ですが、本棚を眺めていると、思いがけない本との出会いがあって面白いです。」

⑥ 山岡さん：「図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間がかかっても、情報があるような状態にはならないですね。」

⑦ 山岡さん：「そうですね。インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがあります。そこで紹介されている本は、本を探している人の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。」

⑧ 山岡さん：「そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますね。おすすめのコーナーには、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできます。」

⑨ 山岡さん：「フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考える必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。」

⑩ フィルターバブル現象

自分の好み情報だけに囲まれ、多様な意見から距離をとりやすくなる現象。

⑪ 山岡さん：「皆さんは、『フィルターバブル現象の資料』にあるような経験がありますか。」

⑫ 山岡さん：「私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている情報に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。」

⑬ 山岡さん：「(解説)の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話を『フィルターバブル現象と本の選び方』にして話し合ってみませんか。」

⑭ 山岡さん：「身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。」

正答：3 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという意見を、理由を明確にして述べている。

学習指導要領における内容（抜粋）

〔第1学年〕 知識及び技能

(1) 情報の扱い方に関する事項

ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。

《情報と情報との関係》

<改善に向けて>

正答率が一番低い1三は「フィルターバブル現象の資料」をもとにグループで話し合った発言の意図を問う問題である。話し合いでは、内容に注目し目的を見失うことがあるため、目的を考えながら相手の意図を汲んで話し合う力が必要である。そのために、相手の主訴をつかむ活動、情報収集では意見と根拠に整理してまとめ、順序立てて伝える活動を取り入れることが大切である。

課題の見られる問題に共通することは、相手に分かりやすく伝える点である。「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の全領域で、伝える目的や相手の意図を捉える場を設定していくようにする。その際、ICTで他者参照することに加え、双方向でのやり取りとなる対話活動も取り入れる必要がある。

【中学校数学】

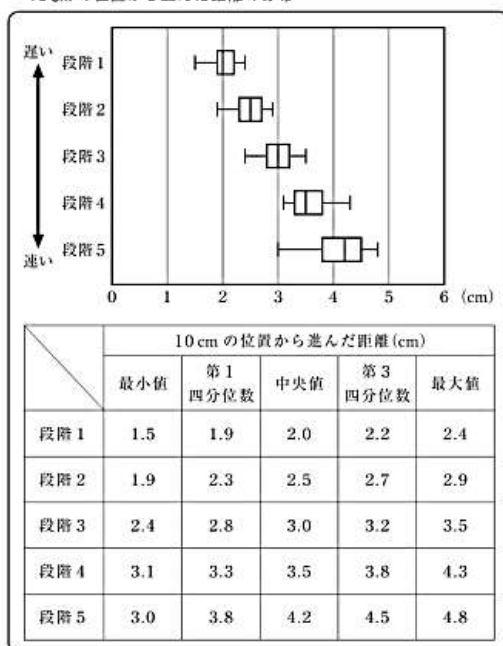
問題 番号	正答率 (%)			問題の概要	出題の趣旨
	吉 田 町	県	全国		
6 (2)	34. 2	44. 6	35. 9	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する。	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。
7 (1)	64. 0	76. 1	74. 3	障害物からの距離が 10cm より小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cm の位置から進んだ距離の最頻値を求める。	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる。
7 (2)	23. 4	29. 2	25. 9	車型ロボットについて「速さが段階 1 から段階 5 まで、だんだん速くなるにつれて、10cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5 つの箱ひげ図を比較して説明する。	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。
8 (2)	13. 5	16. 9	17. 1	18 L の灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
9 (1)	23. 4	31. 5	25. 8	点 C を線分 A B 上にとり、線分 A B について同じ側に正三角形 P A C と Q C B をつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する。	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる。

問題番号 7 (2)

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題

(2) 咲希さんは、車型ロボットの速さを変えたときに、10 cm の位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、速さを段階1から段階5まで変えて、10 cm の位置から進んだ距離をそれぞれ20回ずつ調べ、データを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために箱ひげ図に表しました。

10 cm の位置から進んだ距離の分布



前ページの10 cm の位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10 cm の位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。下の説明を完成しなさい。

説明

したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。

正答の条件

次の(a)又は(b)について記述しているもの。

(a) 箱ひげ図の箱がだんだんと右側にずれていっていること。

(b) 第1四分位数と第3四分位数がだんだんと大きくなっていること。

正答例

- ・ 速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっている。(解答類型1)
- ・ 速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、第1四分位数と第3四分位数が大きくなっている。(解答類型2)

学習指導要領における領域・内容（抜粋）

〔第2学年〕 D データの活用 思考力、判断力、表現力等

(1) データの分布について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断すること。

<改善に向けて>

7(2)は、箱ひげ図（四分位数）の資料から何が読み取れるのか、筋道を立てて説明する力が求められている。そのためには、箱ひげ図が何を意味しているのか十分理解した上で説明する力が必要である。その力は、教師の指導を受け内容理解をして問題を解くだけでなく、考えた理由を数学的な表現を用いて説明することで育成される。

課題の見られる問題に共通することは、根拠を説明する力を問いている点であるため、どの領域においても考えを書く、説明し議論する場を設定していく必要がある。算数同様、家庭学習では、短答式の問題に限らず、解き方や根拠を説明する学習、自分の課題を分析して習熟を図ることも大切である。

4 吉田町の学習状況に関する調査結果

(1) 児童生徒質問紙調査の主な結果 ※肯定的な回答の割合

黄色…10ポイント以上上回る。

青色…県・全国より下回る。[単位%]

質 問 項 目	小学校			中学校		
	吉田町	県比	全国比	吉田町	県比	全国比
自分には、よいところがあると思いますか。	89.3	4.4	5.2	87.7	3.1	4.4
将来の夢や目標を持っていますか。	78.6	-4.6	-3.8	63.0	-3.9	-3.3
人が困っているときは、進んで助けていますか。	97.4	4.3	4.7	94.1	2.8	4.0
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	83.9	15.8	16.8	72.2	3.8	4.7
学校に行くのは楽しいと思いますか。	91.5	5.0	6.7	84.4	-0.5	0.6
小学5年(中学1,2年)のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。	93.8	28.3	34.3	96.4	24.4	32.0
小学5年(中学1,2年)のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。						
① 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。	95.1	8.3	9.6	87.7	5.8	7.5
② 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。	96.9	4.5	4.8	96.8	1.5	2.9
③ 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	95.9	5.3	6.1	91.8	1.4	2.8
④ 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。	92.0	12.3	12.8	90.4	11.3	12.7
⑤ 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。	97.3	10.4	11.2	94.5	6.4	8.3
⑥ 友達と協力しながら学習を進めることができる。	95.1	7.7	8.0	93.2	6.5	8.0
小学5年(中学1,2年)のときに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいましたか。	91.5	9.6	9.6	65.2	8.8	0.4
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	96.8	4.8	5.2	87.2	6.0	13.7
国語の勉強は好きですか。	64.3	4.3	2.3	70.4	7.6	6.1
国語の授業の内容はよく分かりますか。	87.9	3.2	1.6	80.0	-1.2	-2.7
算数[数学]の勉強は好きですか。	63.9	1.1	2.9	72.6	14.3	15.4
算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか。	79.4	-2.3	-2.7	74.4	0.1	-1.3

<結果より>

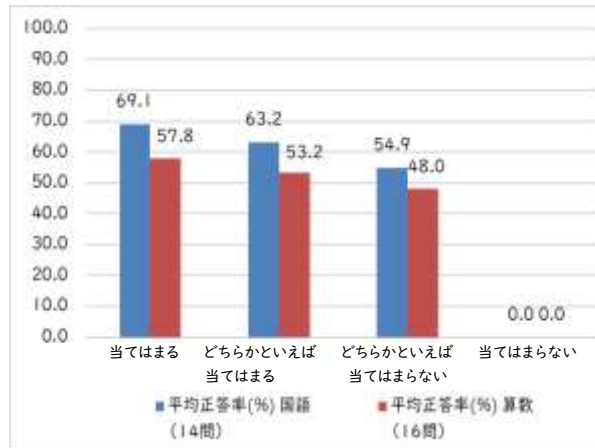
授業におけるパソコンなどのICT機器の活用は、県・全国に比べてかなり進んでおり、特に、自分の考えや意見を分かりやすく伝えたり、友達と考えを共有したりする場面で効果的だと捉えている児童生徒の割合が県・全国に比べて高い。

「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合が県・全国よりも高く、自己肯定感が高まりつつある。一方で、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合が県・全国よりも低く、小学生よりも中学生の割合が低くなっていることは課題である。

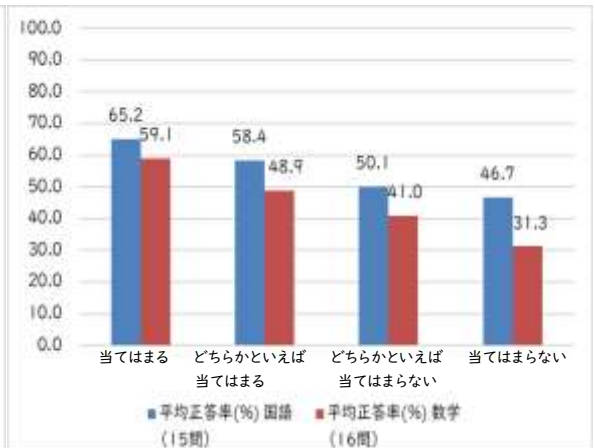
(2) 学力調査と学習状況調査のクロス集計

小学5年（中学1，2年）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

<小学校>



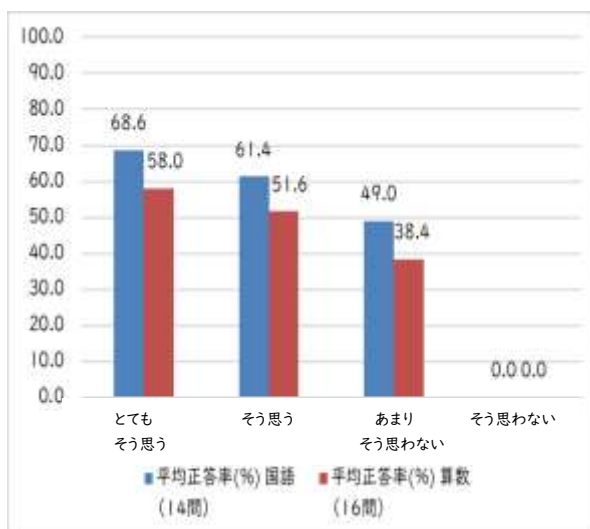
<中学校>



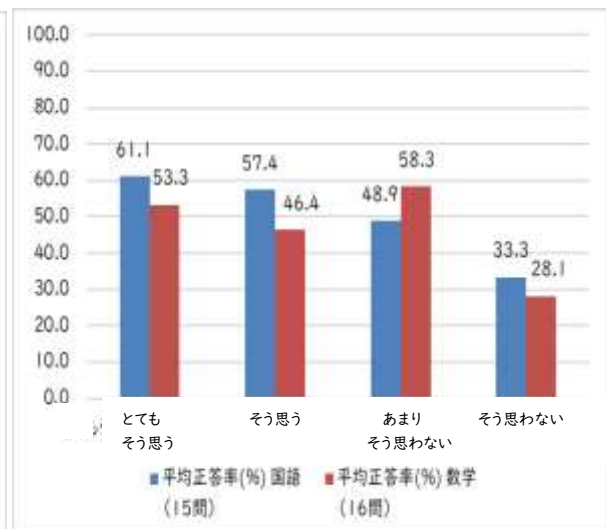
小学5年（中学1，2年）のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。

<小学校>



<中学校>



<結果より>

「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいる」「ICT機器を活用して分からなかったことをすぐ調べている」児童生徒ほど正答率が高い。このことから、本町で取り組んできた主体性の育成やICTの活用が効果を生んでいることが分かる。自分の考えを持ち、主体的に学びに向かうとともに、友達と対話しながら協働的に学ぶことで教科の目標である知識・技能や思考力等を高め、確かな学力の向上を図っていくことが大切である。

また、単にICTを取り入れるだけではなく、どのように活用することが確かな学力の向上に効果的であるのか研究し、児童生徒の深い学びにつなげていくことが必要である。